



折り合い

折り合いは、優しさではなく、技術である。

関係は、衝突によって壊れるとは限らない。
多くは、静かな調整の積み重ねによって、
形を変えていく。

何かを通すでもなく、退くでもなく、
関係の中で、位置だけがわずかに動いていく。

その微細な移動の連続が、
いつのまにか関係そのものの輪郭を変えている。

それを、人は折り合いと呼ぶ。

折り合いは、我慢の美談ではない。
大人の対応でもない。
優しさの証明でもない。

相手を尊重しているように見えて、
実際には、場の安定を優先していることもある。

逆に、譲らないことが、
関係を崩さないための選択であることもある。

折り合いは、性格の問題ではない。
関係の中で、力がどう配置されているかという問題である。

何を通し、何を引くかではなく、
どこに立つかという問題に近い。

関係を壊さず、自己も手放さない地点。
だがその地点は、固定されない。

同じ人とでも、
同じ場でも、
力の配置は、その都度わずかに変わる。

折り合いは、結論ではなく、
その都度、構造を読み直す行為だ。

—— それでも、
どちらにも寄っていないと思った瞬間に、
すでに何かはずれている。

完全に通せば、関係は歪む。
完全に引けば、自己が歪む。

そのどちらも避けようとする動きの中で、
削られずに残るものと、
削れていくものが同時に生まれる。

何も失っていない形では、成立しない。

だから折り合いは、
優しさではなく、技術である。

折り合ったのは、意見ではなく、重心だった。

Edition — 価値観の航路
別景：折り合い

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026